

新小山市市民病院ニュースレター

Shin-yama City Hospital News letter

Vol.50

**目次 1 副院長挨拶****2 医療機器購入****3 職員紹介****4 ふれいあいまつり****5 決算報告****6 お知らせ**

副院長からのメッセージ



副院長・脳神経内科部長 川上 忠孝

今年は梅雨の頃から猛暑が続いておりますが、皆様日々ご健勝のことと存じます。
今回は私の日常診療に関する話題を少々書き連ねて参りたいと存じます。

私は神経内科専門医であり、その中でも特に、①認知症、②パーキンソン病
およびパーキンソン関連症候群（多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、
大脳皮質基底核変性症等）、の2領域に関して 興味を持ち、日頃から診療に携わっております。



この認知症について、少しお話申し上げます。現在私は、週2回、火曜・木曜の午前に物忘れ外来を行い、医師会の先生方からも患者様を多数ご紹介いただいております。認知症関連での最近の話題は、何と言っても新規薬剤の抗アミロイドβ抗体薬による治療であり、興味をお持ちの方も多数いらっしゃるでしょう。まずレカネマブ（レケンビ®）が2023年12月に保険適応となり、次いで2024年12月からドナネマブ（ケサンラ®）が保険適応となりました。適応等の詳細は省略しますが、いずれの薬剤も軽度認知障害（MCI）もしくは初期アルツハイマー型認知症（AD）が適応疾患となっており、中等度以上のADやAD以外の認知症は適応外です。当院でもそれぞれの薬剤投与による治療を今年になってから開始しています。物忘れ外来へご紹介いただく際、抗アミロイドβ抗体薬による治療のご希望がある場合はその旨を紹介状に記載していただくと助かります。物忘れ外来は完全予約制となっており、特に新患枠は2ヶ月以上待ちの状態で大変ご迷惑をお掛けしておりますが、何卒ご理解の程をよろしくお願いいたします。



その他、パーキンソン病およびパーキンソン関連症候群も多数診察していますが、パーキンソン症状の鑑別や治療にはかなり専門的な視点も必要です。『パーキンソンと思ったのに、薬があまり効かない』など、診療で疑問に感じることなどがあれば、私の外来（新患外来は水曜午前）へご紹介いただきたく、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

体成分分析装置 InBody (BWA2.0S)を導入しました

InBody は、医療だけではなくフィットネス分野などでも活躍している体成分分析装置です。

体内の水分量や筋肉量、体脂肪量、部位別筋肉バランスなどをわずか数十秒で詳細かつ正確に測定し、体成分の管理に役立つ情報が得られます。



このたび当院では、体成分分析装置 InBody BWA2.0S を導入しました。InBody は、医療だけではなくフィットネス分野などでも活躍している体成分分析装置ですが、今般当院が導入した InBody BWA2.0S は、多周波インピーダンス測定技術が採用されており、従来の測定機器では難しかった体内水分の細分化や浮腫の評価も可能となり、医療機関に適したモデルです。

患者さんの体水分バランスや栄養状態を詳細に把握することができ、より患者さんの状態にあった診療の提供が可能となります。

さらに、測定姿勢は仰臥位・立位・座位から選択できるため、立位が困難な患者さんでもベッド上での測定が可能です。寝たきりの方や高齢者の評価にも対応しています。

今後とも医療技術の向上を図り、患者さんの立場に立った医療に努めてまいります。

小山市近郊地域医療連携協議会・医師部会 開催報告 —地域医療連携の深化へ—

医療連携室

昨年度に続き、今年度も医師部会が開催されました。6 月 18 日、当院を含む近隣 10 病院より 12 名の医師にご参加いただき、地域医療連携のさらなる強化に向けた意見交換が行われました。

今年度より、新小山市市民病院の院長交代に伴い、協議会会長も佐田尚宏先生に変更となりました。

会は、佐田会長および会員病院代表として光南病院の須田誠理事長によるご挨拶に続き、協議会各部の活動報告、総会・セミナーの報告、ならびに転院実績の共有が行われました。

また、当院における後期高齢者の救急搬送受け入れ状況について報告を行い、高齢者救急は地域全体で取り組むべき課題であることを提起いたしました。

会議後の懇親会では、初参加の医師による自己紹介や近況報告を交え、各医療機関の現状や課題について活発な情報交換が行われ、交流を深める機会となりました。

今後も、顔の見える関係づくりを通じて、地域医療の質向上に寄与してまいります。



会長
佐田先生



新上三川病院
関矢先生



光南病院
須田先生



-----職員紹介（7 月、8 月入職医師 他）（氏名、診療科、ひとこと）

あきね だい
秋根 大**内科総合診療科部長（感染症）**

この度、新小山市民病院に赴任いたしました秋根 大と申します。

自治医科大学を卒業後、茨城県の地域医療に従事し、その後は自治医科大学附属病院 感染症科・感染制御部、茨城県立中央病院 内科（感染症）および感染制御室において、感染症診療ならびに感染防止対策に携わってまいりました。

今後はこれまでの経験を活かし、患者さんや医療スタッフの皆様が感染症対策の面で安心して過ごせる環境づくりに貢献できるよう努めてまいります。この地で新たなミッションに挑戦できることに感謝し、日々精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

なかざわ しょうこ
中澤 晶子**呼吸器内科副部長**

令和 7 年 8 月より 呼吸器内科に常勤医として戻って参りました中澤 晶子 と申します。

平成 10 年に自治医科大学附属病院に研修医として入職してから、令和 2 年に退職するまで 20 年以上呼吸器内科の医局にいましたが、育児短時間勤務であったり、臨床検査医学との兼任であったりと、常に第一線にいた訳ではありません。その後、コロナ禍が始まった令和 2 年から 3 年間、この新小山市民病院に就職して、呼吸器内科とコロナ診療を担当し、多くのスタッフや地域の先生方、大学の先生方、また保健所の方々に支えられながら、充実した貴重な時間を過ごしました。一身上の都合で非常勤医師となり 2 年間余りが経ちますが、やはりこの病院でこの地域の診療に携わりたいと思い、戻って参りました。いろいろと力不足の面がありますが、皆様と協力しながら、支えていただきながら、楽しく働いていきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願いいたします。

たかやま たくや
高山 卓也
眼科

令和 7 年 7 月から眼科に赴任しました高山 卓也と申します。

大田原市出身で、宇都宮高校から琉球大学に進学しました。6 年間の人生の夏休みを謳歌し、医師免許を取って栃木へ帰って参りました。自治医大眼科に入局し、来年の専門医取得に向けて研鑽を積んでいます。

白内障・緑内障手術やぶどう膜炎を専門にしたいと考えております。

微力ではございますが、県南地域医療に貢献できるよう尽力して参ります。宜しくお願い申し上げます。

すとう ともゆき
須藤 智幸**麻酔科副部長**

自治医科大学麻酔科より赴任いたしました。皆様安心して手術を受けていただけるよう尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

たくま あきこ
田熊 明子 **患者支援センター副センター長**

令和 7 年 3 月より患者支援センターの副センター長として勤務しております、田熊 明子と申します。

旧小山市民病院から新小山新病院に移転後、病棟師長として研鑽してまいりました。現在は、入退院支援室長・病床管理室長、看護副部長を兼務しております。

地域の先生方、訪問診療・看護ステーションの皆様、日頃よりお世話になっております。今後も患者支援センターでは、患者・家族が地域で安心して療養できるように入退院支援、後方支援に努めてまいります。

少子高齢化、医療界においても人員の確保など社会的情勢も厳しくなっております。二次医療圏を超えて柔軟な連携が求められている現状です。自施設の別館建設予定における手術室拡大、歯科口腔外科の増設、全病棟急性期病床への転換に向けて、効果的な病床管理と多職種連携を心がけてまいります。

今後ともご理解・ご協力をお願いいたします。

つかはら りかこ
塚原 里香子**医療連携室長 兼 地域サービス推進室長**

このたび 4 月付で入退院支援室室長 兼 病床管理室室長から医療連携室室長 兼 地域サービス推進室室長に異動となりました塚原です。

これまで入退院支援室では、患者さんが安心して入院・治療を受け、退院後も切れ目のない支援が受けられるよう、多職種チームと協働しながら、院内外の支援体制の整備に努めてまいりました。

医療連携室や地域サービス推進室は、患者さんが必要とする医療や支援をスムーズにつなぐ「架け橋」としての役割を担っています。これまでの経験を活かし、地域の医療機関の皆さまとの信頼関係を築きながら、より質の高い連携体制の構築に努めてまいります。

今後も「顔の見える関係づくり」を大切にしながら、地域の中核病院としての役割を果たしてまいります。

引き続き、何かご相談やご要望などございましたら、どうぞお気軽にご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



医療のチカラ、地域のチカラとともに歩む小山の未来

第12回

新小山市民病院ふれあい祭り



10月19日(日)

10:00～15:00(予定)



◇ ミニ講演会 ◇

『みなさんと「がん」について考えましょう』

佐田 尚宏 病院長

『クイズで学ぶ感染症』

感染看護認定看護師 金子 秀樹看護師

※講演内容・時間等が変更になる場合がございます。

◇ 体験コーナー

内視鏡体験

白衣体験

調剤体験

静脈探し体験

車いす体験



※他にも多数のコーナーを開催の予定です。

◇ ステージイベント ◇

～オープニングセレモニー～
ダンススクール chaRENge

チャレンジャー
chaRENge



ふうにゃ&むむにゃ

Niyama City
Symphonic
Wind Orchestra



～ランチイベント①～
小山市交響吹奏楽団



～ランチイベント②～
フレイルダンス

～エンディングセレモニー～
【とちぎジュニアオーケストラ】



※イベント内容・時間等が変更になる場合がございます。

◇ 盛りだくさんのイベント ◇

キッチンカー



※他にもたくさんのイベントを開催の予定です。



病院内では必ずマスク
をご着用ください

駐車場ののご案内

お車でのご越しのお客様は右図の
外来駐車場をご利用ください。

〒323-0827 小山市大字神鳥谷2251番地1

TEL: 0285-36-0200(代) FAX: 0285-36-0300



後援 一社) 小山地区医師会 一社) 小山歯科医師会 一社) 小山薬剤師会



-----令和 6 年度決算について-----

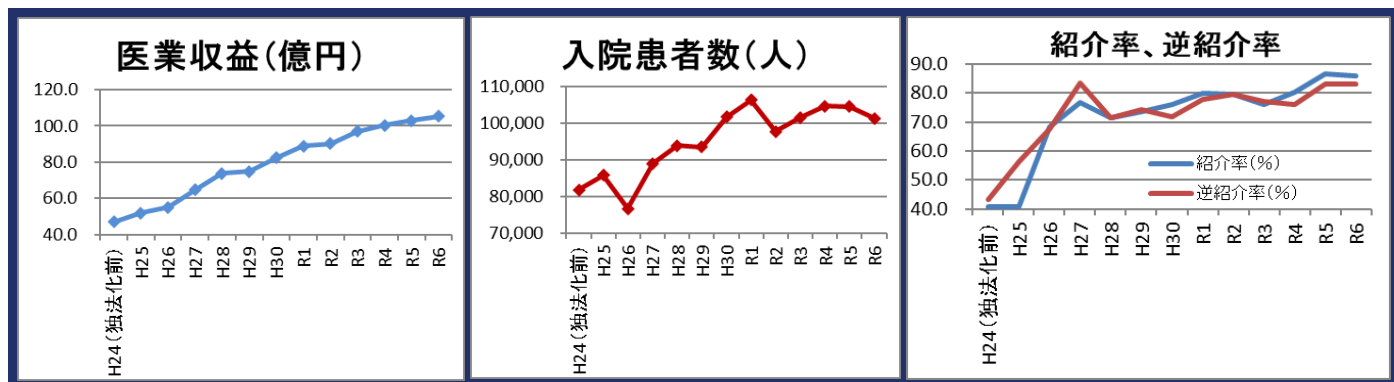
～ 厳しい経営環境のもと、奮闘及ばず地独法化 1 2 期目にして初めての赤字決算 ～

地域の皆さまに最良の医療をお届けするためには、黒字継続による確固たる経営基盤の維持・強化が不可欠という認識のもと、令和 6 年度も質の高い医療提供による収益の積み上げと費用の適正化による最終黒字の確保に向け、職員一丸となって取り組んでまいりましたが、様々な要因による年度上半期の入院患者数（病床稼働率）の減少に加え、物価高騰や人手不足等による費用増大の影響もあり、職員の奮闘及ばず地方独立行政法人化以降初めての最終赤字（約 1 億円）となりました。

一方で、年度下半期には入院患者数（病床稼働率）も急激に回復し、入院・外来収益を柱とする本業の利益である医業収益においては過去最高額を確保できたことは、今後に向けた明るい材料となりました。「赤字は続けない！」の合言葉のもと、業績のV時回復に向け職員は日夜労を惜まず職務に邁進しており、令和 7 年度は現在までのところ令和 6 年度を上回る入院患者数（病床稼働率）で推移しています。もとよりこれは、紹介・逆紹介対応など、医療機関の方々の多大なるご協力あつての賜物であり、職員一同心より感謝申し上げます。

これからも地域の皆さま・医療機関の方々から信頼され、必要とされる持続可能な地域中核病院として一層の医療機能充実に努めて参ります。

引き続き皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



～ 『日本臨床細胞学会認定施設』として認定されました！～

当院の臨床検査部門が 2025 年 4 月 1 日付で、公益社団法人 日本臨床細胞学会より『**日本臨床細胞学会認定施設**』として認定されました。この認定制度は、医療における細胞診断学の重要性に鑑み、一定の規模と要件を備えた施設に与えられます。認定施設は、以下の《基準》を満たさなければなりません。

- ① 常勤又はそれに準ずる**細胞診専門医**、及び常勤の**細胞検査士**が連携した細胞診断業務を遂行していること
- ② **細胞診断件数が年間 2000 件以上**あり、かつ細胞標本を自施設で作製していること
- ③ 日本臨床細胞学会が定める**精度管理**を実施していること



細胞診（断学）とは…

身体から採取した細胞を顕微鏡で観察し、病気の診断やスクリーニングを行う検査です。具体的には、自然に剥がれ落ちた細胞や、病変部から採取した細胞を、細胞検査士や病理医といった専門家が詳細に調べ、異常な細胞（悪性細胞、前がん病変、炎症細胞など）がないかを確認します。

細胞検査士とは…

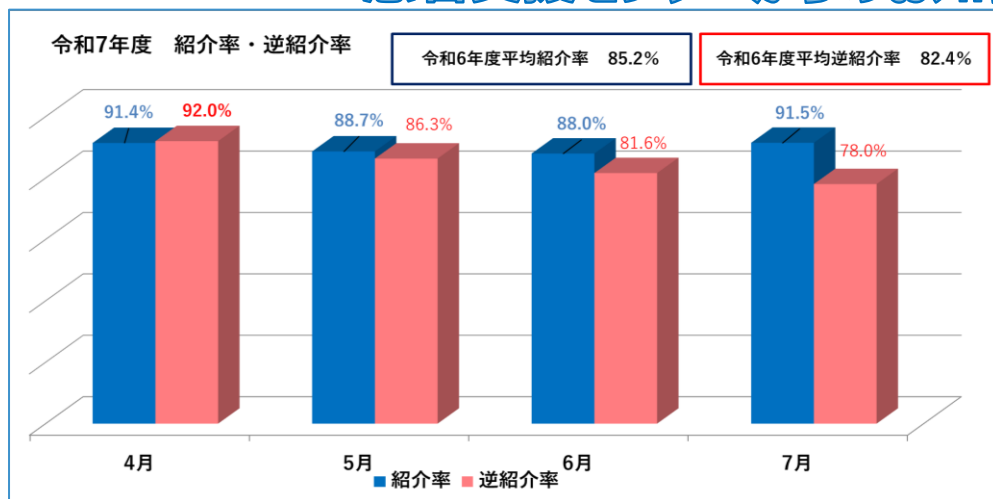
細胞診検査において中心的な役割を担う、高度な専門知識と技術を持つ医療専門職です。細胞検査に関する特別な研修や認定試験を経て資格を取得しています。

精度管理とは…

細胞診検査の正確性を確保するための手法やプロセスを指します。各施設が日常的に検査の質を維持するために行っている内部精度管理と、他施設と比較して業務内容や診断レベルを評価する外部精度管理があります。

当院には 3 名の細胞検査士と、細胞診専門医が在籍しています。今後も信頼性の高い診断結果を担当医に報告できるよう精進してまいります。

患者支援センターからのお知らせ



いつも当院運営にご理解、ご協力頂きありがとうございます。

令和7年4月～7月は、前年度比で**紹介患者数96人増**でした。

引き続きよろしくお願いいたします。

地域完結型医療・連携の会 WEB ライブセミナー

地域完結型医療・連携の会にご参加いただきありがとうございます。

今年度から「地域完結型医療・連携の会の録画配信」を開始しました。配信視聴をご希望の方は、医療連携室へ電話（0285-36-0252）もしくはメール（メールアドレス renkei@hospital.oyama.tochigi.jp）へご連絡よろしくお願いいたします。次回は、9/11（木）に開催します。今後も皆様により満足いただけるセミナーになるよう努めてまいりますので、参加をお待ちしております。



日時 7月10日(木) 19:15～

座長 栗原副院長

症例報告者、症例

外科 篠田医師

粘膜下腫瘍様の形態を呈したリンパ球浸潤胃癌の1切除例

耳鼻咽喉科 五十嵐医師

嚥声を主訴に発見された食道重複症の一例

循環器内科 春成医師

心房細動アブレーションの新たな治療法

～パルスフィールドアブレーションについて～

参加者 64名(院外 28名、院内 36名)

ポットラック カンファレンス

偶数月、
第1火曜日 19:15
オンライン(Zoom)にて
開催しています。

10/7, 12/2, 2/3

	日 程	症例報告
第56回	令和7年 9月11日(木)	脳神経内科・糖尿病代謝内科・泌尿器科
第57回	令和7年 11月13日(木)	脳神経外科・心臓血管外科・眼科
第58回	令和8年 1月8日(木)	循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科
第59回	令和8年 3月12日(木)	消化器内科・外科・小児科



地方独立行政法人 新小山市民病院

〒323-0827

栃木県小山市大字神鳥谷 2251 番地 1

☎ 0285-36-0200 (代表)

URL <https://tochigi.hospital-shinoyama.jp/>

職員採用サイト <https://recruit.soch.jp/#works>



患者支援センター (受付時間 平日 8:30～17:15)

医療連携室：0285-36-0252 (緊急の患者紹介・転入相談・その他地域連携に関すること)

予約専用ダイヤル：0285-36-0254

(もの忘れ外来・内科・脳神経内科・循環器内科の受診予約・胃カメラ・心エコー・腹部エコーなどの検査予約)

医療相談室：0285-36-0256

(医療相談・退院調整に関すること・MSWに連絡・その他、外来患者の各種相談に関すること)

FAX：0285-36-0352

メール：renkei@hospital.oyama.tochigi.jp ※メールでも受付しております。

